

令和4年度

ブロック別研修会の取組 実践発表

～高岡中央ブロック 須崎市保育協会立須崎保育園～

1 園の概要

○園児数、クラス数、職員構成

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス	うさぎ組	こあら組	ぱんだ組	らいおん組	ほし組	にじ組	6クラス
園児数	7	11	11	14	14	21	78
担任(加配)	2	2	2	1	1	1(1)	10
その他	園長 1 主任兼家庭支援推進保育士 1 フリー 2 一時預かり 1 調理員 4 (1日 2 半日 2)						

1 園の概要

○めざす子ども像

- ・健康で生き生きと過ごせる子ども
- ・仲間を認め合い、困難なことに立ち向かっていく力をもった子ども
- ・基本的な生活習慣（正しい規律）を身に付けた子ども
- ・豊かな感性をもった子ども
- ・豊かな創造性、表現力を身に付けた子ども

○保育目標

- ・一人一人の発達段階に応じた基本的な生活習慣を身に付ける
- ・主体的に行動し、そして、子ども同士とともに育ちあう集団作りを目指す
- ・人の話をよく聞き、自分の思いを言えるようにする
また、友達のことと一緒に考えられるようにしていく

2 研修目標

「子ども達一人一人が友だちと心を通わせながら、生き生きと楽しく遊びを展開できる環境構成や保育者の援助について」

3 研修目標設定の理由

本園の子ども達はのびのびと自分の思いを表現することはできるが、人の話を聞くことが苦手で、周りに流されやすい面がある。また、友達を思いやる気持ちはあるが、うまく表現できず強い口調になったり、乱暴な姿が見られる。このような姿から、いろいろな遊びを経験し、優しい心や自他ともに大切な存在であるという気持ちを育てていきたい思いから、この研修目標を考えた。

4 年間取組内容

- ◆ 4月 一年間の研修の方向性についての共有
週・日案や指導案の作成について
- ◆ 5月 親育ち支援研修
0歳児研究保育と協議
- ◆ 6月 2歳児研究保育と協議
- ◆ 7月 4歳児研究保育と協議
- ◆ 9月 3歳児研究保育と協議
- ◆ 10月 1歳児研究保育と協議
- ◆ 11月 5歳児研究保育と協議
0、1、2、4、5歳児公開保育
- ◆ 12月 一年間の振り返り
一年間の実践発表資料作成
に向けた協議
3歳児研究保育と協議
(園内職員で)
- ◆ 1月 一年間の実践発表資料作成
- ◆ 2月 13ブロック交流会への参加
- ◆ 3月 次年度に向けての計画作り

5 成果

①子どもの姿の変容

- ・子どもの興味や関心、育ちに合った玩具の入れ替えをすることで、子ども達が長い時間繰り返し楽しんで遊ぶようになった。
- ・子どもの興味あるものを手作りおもちゃにすることで、夢中になって遊んだり、別の遊びに発展させ楽しむようになってきた。また、乳児クラスでは、子どもの人数以上のおもちゃの数にしたことで、たっぷりと満足するまで遊ぶようになった。
- ・製作コーナーでは、色々な大きさの空き箱や空き容器、木の実など様々な素材を用意したり、子ども達が動きやすい広さにしたりすることによって、自分たちで「こんなの作ってみたい！」と考え、満足するまでじっくりと遊ぶ姿が見られるようになってきた。また年長児を中心に子ども達自らが素材を持ってきて作ろうとし始めた。
- ・子どもの目線になり、片付けやすい位置に棚や印をつける工夫をしたことで、自分から進んで片付けるようになってきた。
- ・遊びが充実してくると、友達との会話も増え子ども同士数人で遊ぶ姿が多くなってきた。
- ・友達ができるようになったことに気付き、ともに喜び合う姿が見られ、仲間意識が深まってきた。

5 成果

②研修体制に関わる内容

- ・各年齢の公開保育と協議を重ねていく中で、職員一人一人が研修への意欲が高まり、園全体で一つの目標に向かって一生懸命取り組むことができた。
- ・年齢幅はあるが、お互いを認め合い支え合う職員集団に変わってきた。
- ・遊びを通して、子ども達が何を楽しんでいるのか、何を経験しているのかという内面を知ることができた。

③保育者の意識や保育実践の変容

- ・協議の中で学んだことやアドバイスなどを、すぐに保育に取り入れ実践したことで、子どもが主体的に考え遊び始めた。その姿から保育者が変われば子どもが変わるということを実感できた。
- ・保育者同士の連携の大切さをより深く考えるようになり、お互い相談し合える関係が今まで以上に広がった。
- ・保育者自身が、活動や行事へのねらいをしっかりともち、丁寧に取り組む姿や工夫することを楽しむ姿が多く見られるようになった。
- ・子ども達一人一人の姿をしっかりと捉え、どんな育ちをしてほしいのかという視点をもって遊びを進めていく大切さを学んだ。

5 成果

④公開保育を行って

- ・子どもの姿を参観者から細かく伝えてもらうことで、子どもの新たな一面を知ることができ、子ども理解につながった。
- ・協議の中で、たくさんの肯定的な意見をもらうことで、これからの意欲や自信につながった。
- ・小学校の先生方が公開保育に参加し年長児の様子を見てもらうことで、スムーズな就学へとつなげていくきっかけとなっている。

⑤その他

- ・保護者への発信の工夫（クラス便りの書き方、子ども^{ども}の育ちの伝え方等）を職員一人一人が考え、発信の仕方を考えるようになった。

6 来年度に向けて

①子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

- ・遊びや生活の中での主体性、自分で気付きやってみようとする力をさらに伸ばしていきたい。
- ・自分の思いを相手に伝えるコミュニケーション力や人の話を最後まで聞く力を伸ばしていきたい。
- ・友だちの良さに気付き、お互い認め合い思いやる気持ちをこれからも大事にしていきたい。
- ・明日も、保育園で友達や先生とこの遊びがしたいなと思える安心感や意欲を大切にしていきたい。

6 来年度に向けて

②研修体制・保育実践・保育の質に関すること

- ・公開保育を行い、室内、園庭の環境の見直しを継続していく。
- ・子どもの発達や姿から、環境を考えていく上で、知識を増やすためにも積極的に研修に参加したり、保育指針を職員会等で活用したりしながら学んでいく。
- ・家庭的な温かい保育を心がけ、心の安定を図っていく。（特に乳児保育）
- ・行事や活動、また保育内容を一つ取り上げて、職員間で考え深め合う時間を作っていく。
- ・年齢ごとの運動遊びの具体的な取り組み方法を話し合い実践していく。
- ・職員同士、子どもを中心とした会話を心がけ、情報共有や成長をともに喜び合う職員集団を作っていく。